

改正される祈祷書 —その理念・背景・実際—

祈祷書改正委員会
市原 信太郎

2024年3月9日(土)

祈祷書とは何か

- 聖公会という教会の特殊性：Lex orandi, lex credendi（祈りの法は信仰の法）
- 単なる機能的な礼拝用書を超えた象徴的意味：ある種の神聖視化も

現行祈祷書内における「祈祷書」の用法：

- 教会問答13：「公禱とは何ですか」→ キリストのみ名により、神の民として共同で行う礼拝で、定められた祈祷書によって行います
- 聖婚式：指輪を用いる場合には、指輪を司祭の祈祷書の上に置く。
- 牧師任命式：主教は新任牧師に聖書、祈祷書、法憲法規を渡し、渡すごとに言う。「...この祈祷書を受け、礼拝をつかさどり、また人びとの中で祈りの人となりなさい。」

「日本聖公会祈祷書」とは何か

■ ミッション・ステートメント :

日本聖公会祈祷書とは、
日本聖公会において信仰と生活を共にする人が、
神に造られ、いのちを与えられた民として、
キリストと共に旅路を歩んでいくために用いる
祈りの書です。

なぜ祈禱書は「改正」されるのか

■2つの意味

- 「なぜ」
- 「改正」

「なぜ」

- 礼拝＝生ける神の呼びかけに対する、「神に造られ、いのちを与えられた民として」の応答
- 時代に応じた形で信仰を表現することの大切さ

「改正」すること

- 「改めて」「正す」
- 「改訂」にしていないのは？
 - 法憲が「改正」を用いている
- その時代その時代における「ふさわしさ」を探求しているということ

祈禱書を改正するのは誰なのか(1)：改正準備委員会設置

■第61総会(2014)決議第22号

「祈禱書改正準備委員会設置の件」

- 現行祈禱書は...今日すでに24年が経過した。
- 祈禱書改正は日本聖公会にとって根幹に関わる大事業であるので、...まず、準備委員会とし、日本聖公会の将来の祈禱書の基本方針、基本的課題を明らかにする作業を進め、...その上で改正作業を進めることとしたい。

祈禱書を改正するのは誰なのか(2)：改正委員会設置

■第62総会(2016)決議第17号

「祈禱書改正委員会設置の件」

- 日本聖公会祈禱書を改正するために次の要領により、標記委員会を設置する。
- 3.任務：祈禱書改正準備委員会からの引継ぎを受け、出版に必要な作業を行う。

祈祷書改正の主体

- 日本聖公会全体

今回の改正への過程

- 1990年祈祷書以来30年余りを経ての改正発議
- 祈祷書改正準備委員会(2014)：1総会期
 - 祈祷書改正の理念（ミッション・ステートメント）等を議論
 - 目次（コンテンツ）に大きな変更はないであろうことを確認
- 改正委員会：1期(2016-2020)、2期(2020-2024)

作業の進め方

2. 祈祷書改正の理念

- 本来は、総会が委員会を設立するに際してこのことが議案に盛り込まれ、委員会への付託事項になるべきなのだろうが...
- 総会はこれを祈祷書改正準備委員会に付託したということ

ミッション・ステートメント

- 準備委員会の議論の中で策定されたもの
- 祈祷書を定義することを通して、改正作業の目的を共有
 - 「ライフ」の共有

ミッション・ステートメント

日本聖公会祈祷書とは、

- 日本聖公会において信仰と生活を共にする人が、
- 神に造られ、いのちを与えられた民として、
- キリストと共に旅路を歩んでいくために用いる

祈りの書です。

ミッション・ビジョン・バ リュー (MVV)

- 改正委員会として、いよいよ本文起草に本格的に取り組もうという段階で策定されたもの
- 「祈祷書改正を行うのは誰なのか」：主語の問題 → 広く共有されるべきもの
 - 企業や団体が、理念を共有する際に広く用いられているこの枠組みを借りた

ミッション（存在意義・使命）

わたしたちは、改正によって、
多彩ないのちを大切にする
21世紀日本の聖公会祈禱書
を作成します。

【ビジョン】（目指すべき姿）

改正される祈禱書は、
日本聖公会において信仰と生活を共にする人が、
神に造られ、いのちを与えられた民として、
キリストと共に旅路を歩んでいくために用いる
祈りの書です。

【バリュー】（価値観・行動指針）

<宣教的>

- 「宣教の五指標」を意識する
- 様々な意味での「多様性」を尊重する
- 現代的な課題に応答する
- 日本社会と日本聖公会の現状を踏まえ、
将来像を視野に入れる

<神学的>

- 聖公会的な「聖書・伝統・理性」を尊重する
- 最新の研究成果・実践例を採り入れる

<実践的>

- 30年先を見据えた祈禱書である
- エキュメニカルである
- 礼拝での使用に適切な日本語を用いる
- 信仰の旅路の同伴者である
- 信徒の奉仕職を促進する

現在のスケジュール

■2024年総会

改正祈祷書案提出、第1回協賛

■2026年総会

第2回同意、改正祈祷書発行

→ 極めて困難（というかほぼ無理）

3. 改正の実際

■時間の許す範囲で、実例をご紹介します

「あたりまえ」の再考

- 用語：「三位一体」と「嘆願」の例
- 式の構造：のちほどの各論の中で

「三位一体」

- 「さんいいたたい」：祈禱書のルビ
- 「さんみいたたい」：通常の用法
- 「教会でいう『三位一体』は三つの『位格』を強調して、あえて『さんい』と読ませているのだ」：この説明は正しいのか？

連声（れんじょう）

- そもそも、「三位 さんい」と「一体 いったい」がなぜ「さんみいったい」と読まれるようになるのか？
- 連声という音韻上の現象：前の音と続く音とが合わさって別の音になる変化
 - 「銀杏 ぎんなん」（Gin + An → ぎんなん）
 - 「仁和寺 にんなじ」（Nin + Wa → にんな）
 - 「三位 さんみ」（Sam + I → さんみ）
- 平安時代の古い日本語では、漢字音の終わりの「ん」に「n」と「m」との区別があったと考えられており、「さんみ」の連声はその名残

「三位一体」は中国語起源

- 「三位一体」＝英語trinityの訳語
- 漢字文化圏では最初に中国語に訳された
- 「三位一体」は、当初同じ音の漢字を当てはめて音訳
- 1692年にドミニコ会士ヴァロが作成したスペイン語と中国語の辞典には、「三位一体」が中国語の訳語として収録されている
 - マテオ・リッチ以来、言葉においても様々な現地化が試みられた結果

聖公会祈祷書の中国語訳

- 日本が鎖国をしている時代、欧米からの宣教師は中国で宣教活動 → その中で、聖書や祈祷書が中国語に訳された
 - ただし、「三位一体」という語は聖書には現れないので、実際には聖公会祈祷書の中国語訳に現れるのみ
- モリソン（1818年 最初の中国語祈祷書出版）による中国語辞書(1822)：
 - 「Trinity is, by the Romanists called, 三位一體(体)」
(Trinityは、ローマ教会の人々に三位一体と呼ばれている)
 - すでにこの時代には、「三位一体」が中国語として定着

A Dictionary of the Chinese Language (1822)

Trinity is, by the Romanists called, 三位一體 san-wei yih te.

日本の祈禱書での「三位一体」

- キリシタン時代、「どちりな・きりしたん」という信徒向けの教理本（カテキズム）出版(1600年頃)
 - 多くのキリスト教用語をポルトガル語の音訳で表記
 - 三位一体（ポルトガル語でTrindade）は「チリンダアデ」
- 日本での宣教師の活動は、中国から日本に派遣されたアメリカ聖公会宣教師ウィリアムズ（のちの江戸監督）によって開始
- ウィリアムズの手になる最初の聖公会祈禱書日本語訳：『朝晩禱文附リタニー』（刊行年不明、1877・明治10年頃？）
 - この中ですでに「三位一体」が用いられている：中国語から日本語にそのまま持ち込まれた

「さんいいいったい」の定着

- その後の日本聖公会祈祷書すべてにおいて「三位一体」が用いられ、ルビはすべて「さんい（み）いったい」
- 理由：外国人にとって、連声という現象は理解不能
 - ウィリアムズのノートに「サンイイツタイのシュシツニ」という記述
 - 中国語の知識からも自然な発想

明治時代の国語辞典

- 『言海』（1889 - 91・明治22 - 24年）：大槻文彦による、近代日本最初の国語辞典
 - 「三位一体」は見出しにない
 - 「三位」の読みは「さんゐ」となっており、「さんみ」の読みでは「三位 サンイの連声」とある
- 『日本大辞書』（1893・明治26年）：読みとアクセントとが記されている辞典
 - 「三位一体」は「さんゐいったい」
 - 「三位」は「さんゐ（第三ミ）」と記され、「さんみ」と発音されることを示す

同時代の英和・和英辞典

- 近代的な辞典として日本で発達したのは、国語辞典よりも英和・和英辞典のほうが先
- 『和英語林集成』（ヘボン、1867初版）
 - 第三版（1886・明治19年）で「ヘボン式ローマ字」として知られる表記法を確立
- この第三版から、「三位一体 Trinity」が見出し語として挙げられているが、英和と和英で表記が異なる
 - 和英の部： SAN-I-ITTAI サン非イッタイ 三位一體
 - 英和の部： TRINITY, *n.* San-ichi, samm-iittai.

推測される理由

- 表記と発音にずれがあった
 - 「さんゐいったい」が正式な表記法
 - 実際の発音は連声を伴って「さんみいったい」
- 「連声が起こっても文字ではそれを表記しない」という指摘をする本もある

キリスト教関係の事典の記述

- 『カトリック大事典』（1940 - 42・昭和15 - 17年）
 - 見出し語の読みは記されていないが、配置順から、読みは「さんみいったい」
- 『キリスト教大事典』（1963・昭和38年）でも、
 - 見出し語は「さんいいったい」
 - さんみいったい 三位一体 → さんいいったい
- 書き言葉と実際の読みとがずれている可能性を示唆

「嘆願」

- 英語ではLitany
- 実は、「嘆願」はLitanyの訳語ではなかった！

なぜ「Litany」が「嘆願」に？

■「朝晩禱文附リタニー」(1877・M10頃?)

●印刷出版された式文としてもっとも古いもの

■この本では、「リタニー」がタイトルとなっている

264
654

朝禱文		晚禱文		朝禱文		晚禱文	
聖句	一二丁	哥林多後書	同	平安禱	十三丁	君臣之為之禱	十四丁
勸衆文	三丁	聖句	一丁	佑ヲ求ル禱	同	效師及会衆之為之禱	十五丁
懺悔文	同	勸衆文	三丁	天下衆人之為之禱	同	天下衆人之為之禱	十九丁
赦罪文	四丁	懺悔文	同	哥林多後書	十七丁		
主禱文	五丁	懺悔文	四丁	リタニイ			
詩九十五	六丁	赦罪文	五丁	交禱文	七丁ヨリ		
讚美頌	七八丁	主禱文	六丁	主禱文	八丁		
萬物頌	九丁	マリア之頌	七丁	海心の歎息云々禱	八丁		
路加一章	十三丁	詩九十八	八丁	交禱文	九丁		
使徒信經	十五丁	詩九十二	九丁	父ヨシテ云々禱	九丁		
平安禱	十六丁	シメオン之頌	同	恩ヲ謝スル文	十丁		
惠之禱	同	詩六十七	十丁	キリソストム之禱	十二丁		
君臣之為之禱	十八丁	詩百三	十一丁	哥林多後書	同		
效師及会衆之禱	同	使徒信經	十二丁				
天下衆人之為之禱	十九丁						

朝禱文
聖句

朝晚禱文
附リタニイ

聖句	一二丁	平安禱	十三丁
勸衆文	三丁	佑ヲ求ル禱	同
懺悔文	同	天下衆人之為之禱	十五丁
赦罪文	四丁	哥林多後書	十七丁
主禱文	五丁	リタニイ	
詩九十五	六丁	交禱文	七丁ヨリ
讚美頌	七八丁	主禱文	八丁
萬物頌	九丁	海心の歎息云々禱	八丁
路加一章	十三丁	交禱文	九丁
使徒信經	十五丁	父ヨシテ云々禱	九丁
平安禱	十六丁	恩ヲ謝スル文	十丁
惠之禱	同	キリソストム之禱	十二丁
君臣之為之禱	十八丁	哥林多後書	同
效師及会衆之禱	同		
天下衆人之為之禱	十九丁		

ルブリック :

日曜日、水曜日、金曜日に於て、朝禱文終りてリタニー一則一般の歎願を謡ひ或ハ言べし

原文 (米国1789) :

The Litany, or General Supplication, to be used after Morning Service, on Sundays, Wednesdays and Fridays

(「歌い或いは言う」は英国1662に由来するもの)

リ タ ニ ー	衆 人	教 師	衆 人	教 師	リ タ ニ ー
世 北 贖 主 聖 子 あ る 神 よ 苦 き 罪 人 あ る 我	等 を 憐 れ 玉 へ。	世 北 贖 主 聖 子 あ る 神 よ 苦 き 罪 人 あ る 我	憐 れ 玉 へ。	天 北 聖 父 あ る 神 よ 苦 き 罪 人 あ る 我 等 を	て 日 曜 日 水 曜 日 金 曜 日 一 般 此 日 歎 願 を 謡 ひ 或 ハ 言 べ し

訳語の対応

■リタニー	則	一般の 歎願
■The Litany,	or	General Supplication

■つまり、「歎願」は「Supplication」(祈願)の訳語であって、リタニーの訳ではない

その後の変遷

- 聖公会祷文(1879) : 「朝晩祷文附リタニー」と同様 : タイトルは「リタニー」のみ
- 日本聖公会祷文(1891) : 同様だが、ルブリックの「歎願」が「嘆願」に変化
- 日本聖公会祈祷書(1895) :
 - タイトル : 嘆願「リタニー」
 - ルブリック : 此禱ハ日曜水曜金曜日に用フベシ

「リタニー」の消失

- 1915祈祷書：「嘆願（リタニ）」
 - 1938祈祷書までこのタイトルを使用
- 1959祈祷書：「嘆願」
 - ついにリタニーが消えた！

改正の実例

「本」としての「出版」

祈祷書のコンテンツ
(構造化されたテキスト)

日常版(携帯版)

- 現行と同じサイズ感を想定
- 日常的に使用するコンテンツを選んで掲載する(掲載しないコンテンツがある)
- 携帯性(可搬性)、見やすさ優先



本

完全版(デスクトップ版)

- 現行より大きいサイズを想定
- すべてのコンテンツを掲載する
- 持ち運びは考慮せず、机上で利用することを想定

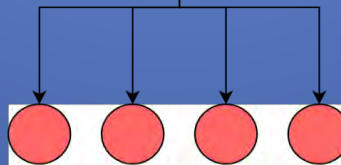


本

電子的に配付

文書ファイル

- Wordの文書ファイル、PDFファイルなどを電子的に配付
- Wordファイルは編集可能



各教会で式文を作成

Webアプリ

- Web上で擬似的にアプリを実現
- スマートフォン、PC、タブレットなどで祈祷書データにアクセスして利用可能

アクセシビリティ

- 点字プリンタ・ディスプレイ
- 音声読み上げ
- 拡大版 など

電子本

- 既存のプラットフォーム上で、より見やすい形での閲覧を可能にする
- 使用可能デバイスはプラットフォームに依存

祈りの言葉として

- 文体・用語

- 共通典礼文

- 詩編

いくつかの実例

- 聖書日課
- 朝夕の礼拝等
- 聖餐式
- 入信の式
- 誕生感謝の祈り
- 病人訪問の式・葬送の式

聖書日課

- 聖餐式聖書日課として、「改定共通聖書日課」(Revised Common Lectionary, RCL) を採用
 - 試用版の聖書日課を発行中：どうぞ使ってみてください

朝夕の祈り・日々の祈り

- 全体のタイトルを「～の祈り」で統一
- 1日のサイクルの中での祈りということを明示するために、「朝・昼・夕・就寝前」と時間順に配列
- 日々の祈りに用いる式文を新規に作成
- 現行の朝夕の礼拝の構造は基本的に保持、コンテンツ（詩頌）等は追加する方向

ユーカーリスト（聖餐式）

- タイトルを「感謝聖餐式」とすることを検討
- 全体的な基本構造は保ちつつ、各部分を再検討
 - 懺悔の形についての検討：相互の懺悔（mutual confession）の見直し
 - より充実した形で期節の意図を反映させる
 - 聖餐式文を複数提供する可能性
 - 感謝聖別文の追加
 - 多彩な制定語のパターンの採用
- 司式者の所作に案する基本的な指示の提供

東アジア聖餐祈祷(感謝聖別文)

- 2018年、聖公会東アジア礼拝協議会 (ALNEA) 設立
 - 2009年IALC依頼の悲願
 - 当初から、共通の感謝聖別文を作成したいという意図
- 2023年10月、ナザレ修女会に代表が集まり草案を確定、その後の作業を経て2024年1月に第1版完成
- 2024年2月のIALCにて、1セッションがこの発表と討議に充てられる

入信の式

- 洗礼のプロセス性を前面に出すよう改正する。段階を経て洗礼に近づいていくような形の式をいくつか用意する。
- 「洗礼志願期」を明確に位置づけ、洗礼志願式はこの期間への参入式とする。
- 洗礼のプロセスの中で、それぞれの期間に期待される事柄を整理し、式文に反映する。
- 洗礼のプロセスに礼拝的に、教育的に関わる方法を考察し、式文に反映する。

入信の式（承前）

- 洗礼が宣教的意味を持つということがより明確になるように式文を見直す。
- 幼児洗礼で「親や教父母が代わりに約束」という神学を再考し、式文を見直す。
- 子どもが幼児洗礼を受けないケースに対応可能な式を用意する。
- 式の構造を、他管区の祈祷書の式文等を参考にしながら整理する。

教会問答

- 現行祈禱書の「教会問答」を踏襲しつつ、神学的な発展・再発見に応答するために必要な加筆・修正を行う。
- 現行祈禱書の形に加えて、アメリカ聖公会祈禱書「信仰のアウトライン」型の「教会問答」の作成も試みる。
- 「要点を押さえ、簡潔で、説明し過ぎない」教会問答を作成するが、教会問答に対する「解説書」や「副読本」の作成を前提としたい。

病者ととともにささげる礼拝

- タイトルの変更（「病者ととともにささげる礼拝」）
- 使用する場所は病床だけでなく、施設や病院、教会など
- 独自の特祷を作成する
- 病者ととともに祈ることを前提とした感謝聖別文を作成する
- 「病児の按手」は削除し、「諸祈禱」に祈りを加える
- 多様な文脈に応じた「諸祈禱」や祈りを掲載する
- 「死に臨む人の嘆願」は葬送の諸式に入れる

葬送の諸式

- 式文の構成を変更：
死に臨む人のための嘆願／納棺の祈り／通夜の祈り／
葬送式／火葬／埋葬／逝去者記念の式／聖餐／
使用聖書箇所・詩編・祈り の順に掲載
- 「通夜の祈り」は選択個所のバリエーションを増やす
- 「幼年葬送式」は廃止し、オプションで対応
- 逝去者や遺族の状況や、葬送の多様な文脈に応じた
「諸祈祷」や祈りを掲載する